令和８年度　全国学力・学習状況調査結果と分析について

泉南市教育委員会

【調査概要】
(1) 対象学年：小学校６年生、中学校３年生　**(2) 実施日**　令和８年４月23日（木）
(3) 調査内容：①教科に関する調査　小学校【国語、算数】　中学校【国語、数学、英語（CBTシステムによるオンライン実施）】　※今年度、理科は実施なし（理科・英語は３年に一度程度の実施）
②質問紙調査【児童・生徒に対する調査（一部CBTシステムによるオンライン実施）、学校に対する調査】
※CBT（Computer-Based Testing　コンピュータ使用型調査）：紙と鉛筆によるテストに代わり、タブレットやパソコンなどの端末を使ってオンラインで受検する方式

調査の目的

全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る

学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる

そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する

学　力　調　査　結　果

中学校数学において府との差が縮まった！

ここ数年、府との差が0.1ポイント以上広がっていた中学校数学において、差が縮まった。
「数と式」「データの活用」の領域において正答率が向上しており、基礎基本の定着が図られていることが伺える。

小学校で課題が顕著に！

今年度は特に、小学校の国語「情報の扱いに関する事項」「話すこと・聞くこと」「書くこと」の領域において、算数「図形」の領域において課題が顕著になった。
特徴として、難しい問題だけでなく、全国や大阪府での正答率が高い問題についても正答できない児童の割合が多い。
学力の底上げを図るため、個別の理解状況や認知特性に応じた指導と支援を行うことが重要である。

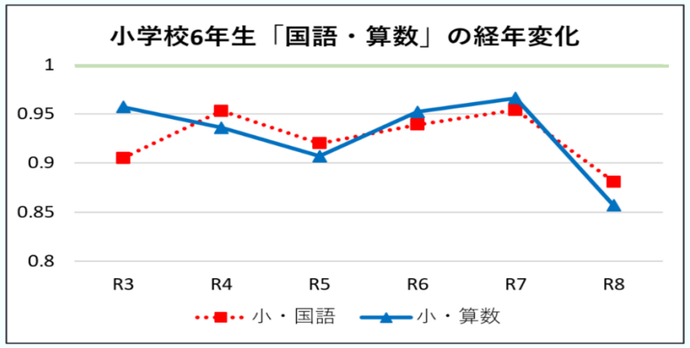
学力調査結果に関わって、各教科の課題の見られた問題や領域と評価の観点別の正答状況など、
質問紙調査結果に関わって、主な質問事項と回答状況、正答率との関係など、より詳細の資料を別紙にて掲載しています。

小学校６年生

【平均正答率】（本市、大阪府は整数まで、全国は小数第１位までの表示）

小学校6年生	泉南市	大阪府	全国	対府比	（参考）R7対府比
国語	52%	59%	60.9%	0.881	0.954
算数	48%	56%	56.4%	0.857	0.966

【対府比の経年比較】



◆ 国語・算数とも、府・国より、正答率は低い。
◆ 国語・算数とも、府との差は広がった。（R7対府比との比較より）

【無解答率】

小学校6年生	泉南市	大阪府	全国	府との差	（参考）R7府との差
国語	3.85%	3.27%	3.41%	0.58%	−0.5%
算数	4.37%	3.13%	3.21%	1.24%	−0.9%

◆ 国語・算数とも、府・国より無解答が多く、府との差は広がった。

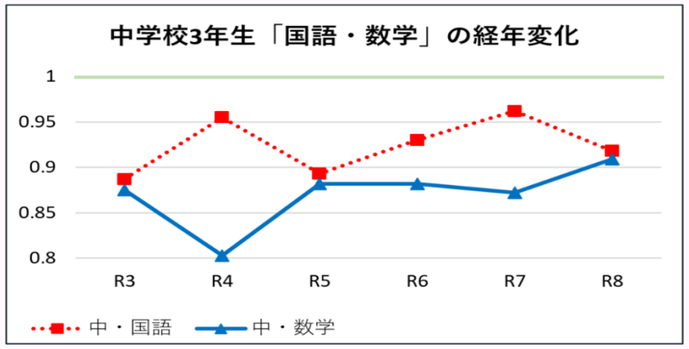
中学校３年生

【平均正答率】（本市、大阪府は整数まで、全国は小数第１位までの表示）

中学校3年生	泉南市	大阪府	全国	対府比	（参考）R7対府比
国語	56%	61%	63.9%	0.918	0.962
数学	50%	55%	57.0%	0.909	0.872

＊英語はIRTスコアによる結果のため、標記せず

【対府比の経年比較】



◆ 国語・数学とも、府・国より、正答率は低い。
◆ 数学は、府との差は縮まった。（R7対府比との比較より）

※「対府比」と示しているのは、大阪府の平均正答率を１とし、大阪府と比べてどれくらいできているかを表したもの。

【無解答率】

中学校3年生	泉南市	大阪府	全国	府との差	（参考）R7府との差
国語	8.15%	5.81%	4.86%	2.34%	0.2%
数学	15.79	12.31%	10.41%	3.48%	1.2%

◆ 国語・数学とも、府・国より無解答が多く、府との差は広がった。

質問紙調査結果

（＊下記表は、質問事項に対して「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合）

●「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」

	小学校 6 年生			中学校 3 年生		
	泉南市	大阪府	全国	泉南市	大阪府	全国
R8	96.5%	95.1%	95.8%	96.2%	95.4%	95.9%

●「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか」

	小学校 6 年生			中学校 3 年生		
	泉南市	大阪府	全国	泉南市	大阪府	全国
R8	92.9%	92.1%	92.5%	91.6%	90.4%	91.0%

●「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」

	小学校 6 年生			中学校 3 年生		
	泉南市	大阪府	全国	泉南市	大阪府	全国
R8	97.0%	95.0%	96.2%	93.3%	94.0%	95.1%

●「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」

	小学校 6 年生			中学校 3 年生		
	泉南市	大阪府	全国	泉南市	大阪府	全国
R8	94.5%	92.5%	91.4%	90.0%	90.7%	90.9%

上記の項目において、小中学生ともに 90%以上が肯定的に回答しており、小中学生共通して良い結果となった。

●「あなたの学級では、人と違う意見を言っても否定されないと思いますか」

	小学校 6 年生			中学校 3 年生		
	泉南市	大阪府	全国	泉南市	大阪府	全国
R8	74.4%	73.9%	69.6%	77.5%	67.5%	67.5%

●「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」

	小学校 6 年生			中学校 3 年生		
	泉南市	大阪府	全国	泉南市	大阪府	全国
R8	80.9%	75.3%	77.9%	80.0%	76.9%	78.6%

●「困りごとや不安があるときに、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」

	小学校 6 年生			中学校 3 年生		
	泉南市	大阪府	全国	泉南市	大阪府	全国
R8	77.2%	76.0%	70.6%	76.3%	74.1%	71.9%

上記の項目において、小中学生ともに全国や大阪府よりも肯定的に回答しており、小中学生共通して良い結果となった。

●「学校の授業時間以外に、平日、1 日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（塾や家庭教師、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）」**【うち、1 時間以上勉強している割合】**

	小学校 6 年生			中学校 3 年生		
	泉南市	大阪府	全国	泉南市	大阪府	全国
R8	35.3%	45.8%	49.4%	53.6%	62.7%	61.6%

●「普段、平日１日当たりどれくらいの時間、スマートフォンや携帯電話、パソコン、タブレット、ゲーム機、テレビ等で SNS や動画視聴などをしますか（学習する時間やゲームをする時間は除く）**【うち、3 時間以上 SNS や動画視聴などをしている割合】**

	小学校 6 年生			中学校 3 年生		
	泉南市	大阪府	全国	泉南市	大阪府	全国
R8	48.1%	40.0%	37.6%	69.1%	55.6%	49.6%

●「学校の授業時間以外に、平日、1 日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）」**【うち、30 分以上読書をしている割合】**

	小学校 6 年生			中学校 3 年生		
	泉南市	大阪府	全国	泉南市	大阪府	全国
R8	15.0%	24.0%	26.1%	12.5%	15.4%	18.0%

●「あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか（雑誌、新聞、教科書は除く）」**【うち、101 冊以上あると答えた割合】**

	小学校 6 年生			中学校 3 年生		
	泉南市	大阪府	全国	泉南市	大阪府	全国
R8	20.8%	29.7%	30.7%	21.6%	29.1%	31.2%

家庭学習時間の短さに対し、家庭における SNS・動画視聴等に費やす時間が長いことから、学習の習慣化や学習環境などにおける課題が見られる。また、授業以外での読書時間の短さや家庭における蔵書数の少なさなどの課題も見られる。

質問紙調査より

・「いじめはいけない」「否定されない」、「先生は、あなたのよいところを認めてくれる」「先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」など、学校における安心安全の環境づくりについては一定の成果が見られる。

　一方で肯定的回答以外の回答をしている児童生徒が一定数いることについても注視しておく必要がある。

・学習の習慣化や学習環境に課題が見られる状況を踏まえ、子どもたちが「何を学習すればいいのか」「どのように学習すればいいのか」などを子どもと一緒に確認し、教えていくことが重要である。

　また、学校では学校図書館を中心とした読書活動の推進や本に触れる環境の整備、家庭や地域においては、市立図書館などの積極的な活用や幼少期からの読み聞かせなど、本に触れる、文字に触れる機会の確保に努める必要がある。

別紙資料

項目

◆令和８年度 全国学力・学習状況調査における課題の見られた問題
・・・・・・P2～8

◆各教科における領域と評価の観点別の正答状況 ・・・・・・P9

◆質問紙調査から主な質問事項と状況 ・・・・・・・・・・・P10

◆児童・生徒質問紙調査から見る特徴と考察（クロス集計活用）
・・・・・P11～17

◆同一集団の 3 年後の状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・P18

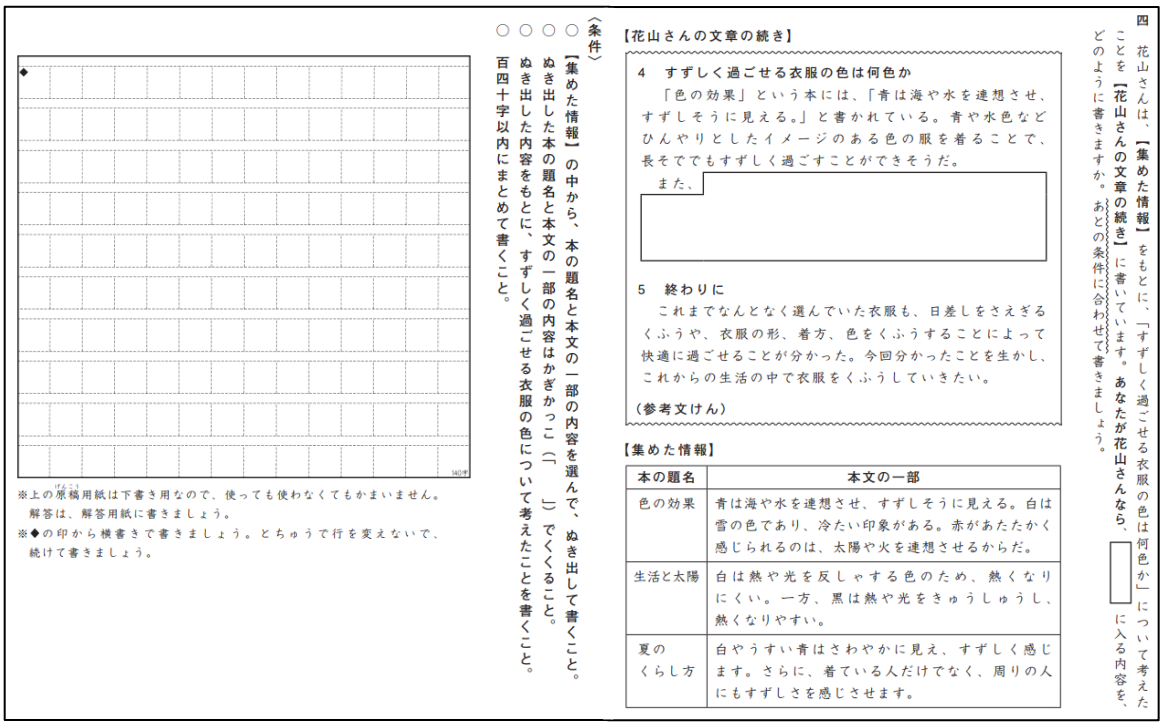
◆令和８年度 全国学力・学習状況調査における課題の見られた問題

今年度の泉南市の傾向として、根拠の引用や条件の合致、情報の選択などの問題で課題が多くみられた。つまり、問題の文章を正しく読み取り、問われていることは何なのかを理解する力への課題である。言語に関する基礎知識や概念の深い理解ももちろん必要であるが、複数の情報が含まれた場面に出会うことや必要な情報を取捨選択することなどを普段から経験することも必要である。

以下に、今年度の全国学力・学習状況調査における 課題の見られた問題を例示する。

◎小学校【国語】

問題２四
条件作文（正答率　22.6%、無答率　7.8%）



四　花山さんは、【集めた情報】をもとに、「すずしく過ごせる衣服の色は何色か」について考えたことを【花山さんの文章の続き】に書いています。あなたが花山さんなら、［　　］に入る内容を、どのように書きますか。あとの条件に合わせて書きましょう。

【花山さんの文章の続き】

4　すずしく過ごせる衣服の色は何色か

「色の効果」という本には、「青は海や水を連想させ、すずしそうに見える。」と書かれている。青や水色などひんやりとしたイメージのある色の服を着ることで、長そでででもすずしく過ごすことができそうだ。

また、［　　］

5　終わりに

これまでなんとなく選んでいた衣服も、日差しをさえぎるくふうや、衣服の形、着方、色をくふうすることによって快適に過ごせることが分かった。今回分かったことを生かし、これからの生活の中で衣服をくふうしていきたい。

（参考文けん）

【集めた情報】

本の題名	本文の一部
色の効果	青は海や水を連想させ、すずしそうに見える。白は雪の色であり、冷たい印象がある。赤があたたかく感じられるのは、太陽や火を連想させるからだ。
生活と太陽	白は熱や光を反しゃする色のため、熱くなりにくい。一方、黒は熱や光をきゅうしゅうし、熱くなりやすい。
夏のくらし方	白やうすい青はさわやかに見え、すずしく感じます。さらに、着ている人だけでなく、周りの人にもすずしさを感じさせます。

〈条件〉
○ 【集めた情報】の中から、本の題名と本文の一部の内容を選んで、ぬき出して書くこと。
○ ぬき出した本の題名と本文の一部の内容はかぎかっこ（「　」）でくくること。
○ ぬき出した内容をもとに、すずしく過ごせる衣服の色について考えたことを書くこと。
○ 百四十字以内にまとめて書くこと。

◆

140字

※上の原稿（げんこう）用紙は下書き用なので、使っても使わなくてもかまいません。解答は、解答用紙に書きましょう。
※◆の印から横書きで書きましょう。とちゅうで行を変えないで、続けて書きましょう。

問題番号	問題の概要	解答類型									
		1	2	3	4	5	6	7	8	99	無解答
2四	【花山さんの文章の続き】の空欄に入る内容を、【集めた情報】から抜き出して考えが伝わるように書く	17.6	5.0	0.0	3.1	4.6	5.4	38.3		18.1	7.8
		25.1	4.9	0.0	3.5	6.7	5.1	32.7		16.6	5.3
		28.0	5.4	0.0	4.4	6.1	5.3	29.2		16.6	5.2

（正答の条件）
次の条件を満たして解答している。
① 【集めた情報】の中から、以下のことを抜き出して書いている。
　a 本の題名
　b 本文の一部の内容
② 抜き出した部分をかぎ（「　」）でくくっている。
③ 涼しく過ごせる衣服の色について考えたことを書いている。
④ 140字以内で書いている。

1	◎	条件①ａ、ｂの両方、②、③、④を満たしているもの
2	○	条件①ａ、ｂの両方、③、④を満たしているが、条件②は満たしていないもの
3		条件①ａ、ｂの両方、②、③は満たしているが、条件④は満たしていないもの
4		条件①ａ、ｂの両方、②は満たしているが、条件③は満たしていないもの　＊条件④を満たしているかどうかは不問とする。
5		条件①ａ、②、③は満たしているが、条件①ｂは満たしていないもの　＊条件④を満たしているかどうかは不問とする。
6		条件①ｂ、②、③は満たしているが、条件①ａは満たしていないもの　＊条件④を満たしているかどうかは不問とする。
7		条件③は満たしているが、条件①ａ、ｂ、②は満たしていないもの　＊条件④を満たしているかどうかは不問とする。
99		上記以外の解答
0		無解答

趣旨

引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる。

課題と改善策

＜課題＞

【情報の引用と自分の言葉の結合】

単に自分の感想を書くことに留まったり、根拠となる資料の指定箇所を引用できず無解答になったりする児童が多い。

【条件合致】

字数制限に沿って書いたり、引用文には「」を付けたりする活動に弱さが見られる。

＜改善策＞

① 完璧な答案を求めず、まずは「わかっていること」「自分の予想」を１行だけでも書く習慣をつける。
　部分点やプロセスを評価する声かけにより、白紙（無解答）を減らすことができる。

② 授業の冒頭や最後に、自分の解き方を隣の人に口頭で説明する時間を設ける。
　「言葉で説明できること」が「文章で書けること」の土台になる。

◎ 小学校 算数

問題１（３）
１㎤の立方体を３６個使ってできた直方体の体積を出す（正答率　28.5%、無答率　5.4%）

> (3)　1 cm³ の立方体が 36 個あります。36 個をすべて使って、高さが 4 cm の直方体を 1 つ作りました。
>
> その直方体の体積は何 cm³ ですか。
>
> 答えを書きましょう。

問題番号	問題の概要	解答類型									
		1	2	3	4	5	6	7	8	99	無解答
1（3）	1立方センチメートルの立方体を３６個使ってできた直方体の体積を書く	28.5	22.4	15.0	1.7	17.0				9.8	5.4
		40.0	19.8	14.2	1.6	15.5				4.9	4.0
		40.1	20.0	14.3	1.4	15.1				4.9	4.2

1	◎	３６　と解答しているもの
2		１４４　と解答しているもの
3		９　と解答しているもの
4		４　と解答しているもの
5		３６、１４４、４　以外で４の倍数を解答しているもの
99		上記以外の解答
0		無解答

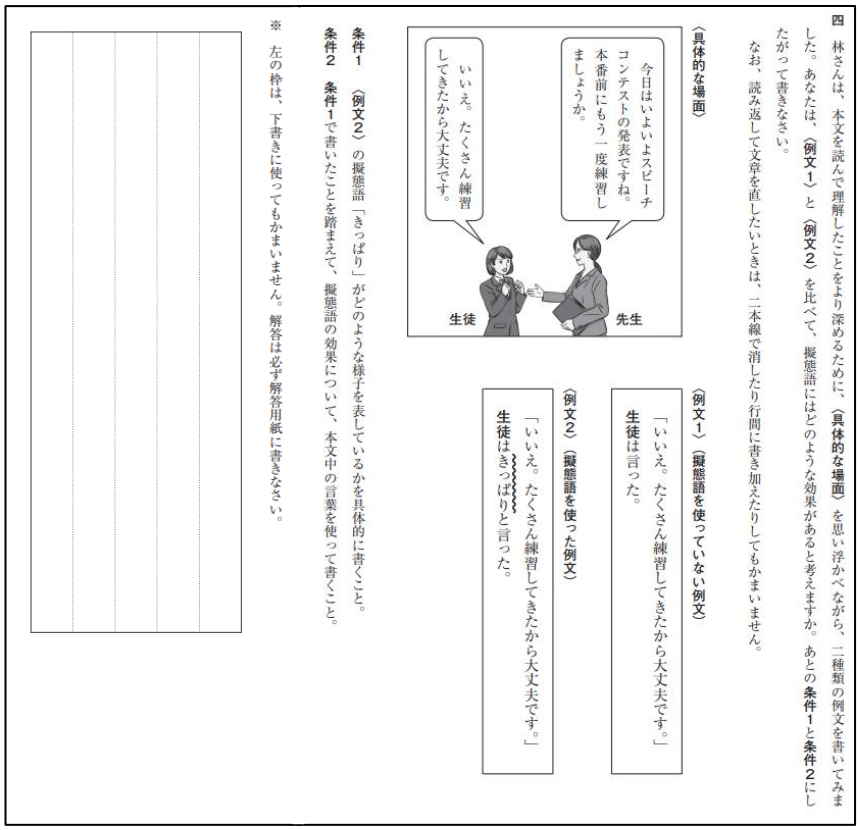
趣旨
体積の意味について理解しているかどうかをみる。

課題と改善策
＜課題＞
【整理】「複数の情報からの選択」
体積の意味を正しく理解することを求められる中で、必要情報を抜き出して回答する問題で正答率が低下する。

＜改善策＞
① 「量概念（何個分か）」に立ち返る具体物・半具体物の操作：
公式の計算（手続き）に入る前に、体積の「意味」を身体的・視覚的に捉え直す。
② 「形が変わっても体積は同じ」の体験:
1 ㎤の積み木を 36 個用意し、バラバラの状態から、1 列に並べたり、2 段に積んだりして、いろいろな形の直方体を作らせる。「形や高さ（など）が変わっても、使っている積み木の数は 36 個のままだから体積も変わらない」ことを実感させる。
③ 不揃いな立体の体積測定：
公式が使えない「階段状の立体」や「凸凹した立体」の体積を、中の積み木を数えることで求めさせる。これにより、「体積を求める＝公式に当てはめる」ではなく、「体積を求める＝１㎤が何個あるか数える」という根本的な意味を定着させる。
④ 公式の「逆向きの思考」を取り入れた授業展開：
「縦×横×高さ」から体積を出す（順思考）だけでなく、体積から辺の長さを考える（逆思考）活動を取り入れる。

◎中学校【国語】

問題４四
例文を比べながら、擬態語「きっぱり」が表している具体的な様子と擬態語の効果を書く（正答率　29.5%、無答率　27.9%）



四　林さんは、本文を読んで理解したことをより深めるために、〈具体的な場面〉を思い浮かべながら、二種類の例文を書いてみました。あなたは、〈例文１〉と〈例文２〉を比べて、擬態語にはどのような効果があると考えますか。あとの**条件１**と**条件２**にしたがって書きなさい。
なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

〈具体的な場面〉

〈例文１〉〈擬態語を使っていない例文〉
「いいえ。たくさん練習してきたから大丈夫です。」
生徒は言った。

〈例文２〉〈擬態語を使った例文〉
「いいえ。たくさん練習してきたから大丈夫です。」
生徒はきっぱりと言った。

条件１　〈例文２〉の擬態語「きっぱり」がどのような様子を表しているかを具体的に書くこと。
条件２　**条件１**で書いたことを踏まえて、擬態語の効果について、本文中の言葉を使って書くこと。

※　左の枠は、下書きに使ってもかまいません。解答は必ず解答用紙に書きなさい。

問題番号	問題の概要	解答類型									
		1	2	3	4	5	6	7	8	99	無解答
4四	二つの例文を比べながら、擬態語「きっぱり」が表している具体的な様子と擬態語の効果を書く	29.5	35.1	3.3						4.2	27.9
		34.6	36.2	2.7						5.2	21.4
		38.9	35.1	2.5						5.0	18.6

（正答の条件）
次の条件を満たして解答している。
①　〈例文２〉の擬態語「きっぱり」がどのような様子を表しているかを具体的に書いている。
②　「きっぱり」について考えたことを踏まえて、擬態語の効果について、本文中の言葉を使って書いている。

1	◎	条件①、②を満たして解答しているもの
2		条件①を満たし、条件②を満たさないで解答しているもの
3		条件②を満たし、条件①を満たさないで解答しているもの
99		上記以外の解答
0		無解答

趣旨
文章を読んで理解したことに基づき、自分の考えを確かなものにすることができるかどうかをみる。

課題と改善策
＜課題＞
【情報の再構成】複数資料の統合・比較
　擬態語「きっぱり」がどのような様子を表しているかを具体的に書くことはできているが、

擬態語の効果について本文中の言葉を使って書くことに苦労する生徒が多い。

＜改善策＞

① 擬態語の効果を実感させるために、授業や家庭学習で「その言葉がある文」と「ない文（または別の言葉に替えた文）」を並べて比べる習慣をつける。
A と B（C）で、受ける印象はどう違う？」と問いかけ、「きっぱり」があることで、「迷いやためらいが一切ない様子」「意志が非常に強いこと」が際立つという「効果」を、生徒自らに発見させる。

② 「具体的な様子」と「効果」の書き分けを型化する。
正答率が低い原因の一つに、問題の要求（「具体的な様子」と「効果」の 2 点）に正しく応えられていないケースがある。記述の「型」を身に付けさせることが有効である。
例
・具体的な様子：「～という（動作や心理の）状態・様子」
・効果：「～という印象を強める」「～を強調する」

◎中学校【数学】

問題９（3）

データの傾向を的確に捉え、判断の理由を度数分布多角形の特徴を基に説明できるかどうかをみる （正答率　25.1%、無答率　40.2%）

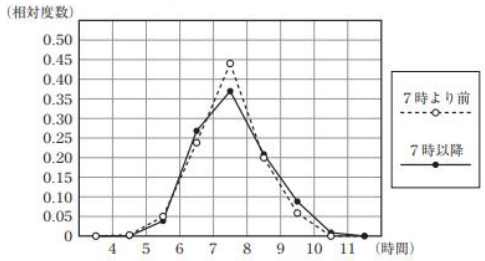
（3）二人は、睡眠時間の特徴をさらに知りたいと思い、全校生徒を次のように分け、睡眠時間の分布の傾向を調べることにしました。

桃音さん…起床時刻が７時より前と７時以降の生徒に分ける
悠真さん…就寝時刻が23時より前と23時以降の生徒に分ける

桃音さんは、起床時刻で分けた場合について、各階級の相対度数を求めて度数分布多角形(度数折れ線)に表しました。

桃音さんが調べたこと

起床時刻が７時より前の生徒･･･211人
起床時刻が７時以降の生徒･････ 89人



桃音さんは、上の２つの度数分布多角形を比較して、次のようにまとめました。

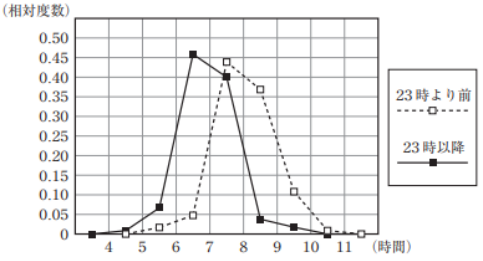
桃音さんのまとめ

２つの度数分布多角形は同じような形である。また、２つの度数分布多角形はほぼ同じ位置にある。
したがって、起床時刻が７時より前の生徒と７時以降の生徒の睡眠時間は同じような傾向にある。

悠真さんは、就寝時刻で分けた場合について、各階級の相対度数を求めて度数分布多角形に表しました。

悠真さんが調べたこと

就寝時刻が23時より前の生徒･･･152人
就寝時刻が23時以降の生徒･････148人



悠真さんが調べたことの２つの度数分布多角形を比較すると、「就寝時刻が23時より前の生徒と比べて、23時以降の生徒の方が睡眠時間が短い傾向にある」と主張することができます。そのように主張することができる理由を、**悠真さんが調べたこと**の２つの度数分布多角形の形と位置を比較して説明します。前ページの**桃音さんのまとめ**を参考にして、下の**説明**を完成しなさい。

説明

（　　）

したがって、就寝時刻が23時より前の生徒と比べて、23時以降の生徒の方が睡眠時間が短い傾向にある。

問題番号	問題の概要	解答類型									
		1	2	3	4	5	6	7	8	99	無解答
9（3）	「就寝時刻が２３時より前の生徒と比べて、２３時以降の生徒の方が睡眠時間が短い傾向にある」と主張できる理由を、悠真さんが調べたことの二つの度数分布多角形の形と位置を比較して説明する	25.1	10.0	9.8	2.8	0.5				11.6	40.2
		27.0	10.2	9.7	3.9	0.7				14.5	34.0
		31.9	10.2	10.3	4.4	0.9				13.4	28.9

（正答の条件）
次の(a)、(b)について記述しているもの。
(a)　就寝時刻が２３時より前の生徒の度数分布多角形と就寝時刻が２３時以降の生徒の度数分布多角形が同じような形であること。
(b)　就寝時刻が２３時より前の生徒の度数分布多角形よりも就寝時刻が２３時以降の生徒の度数分布多角形の方が左側にあること。

1	◎	(a)、(b)について記述しているもの
2		(a)について記述し、二つの度数分布多角形の位置が異なることのみを記述しているもの
3		(a)のみを記述しているもの
4		(b)のみを記述しているもの
5		(a)、(b)について、度数分布多角形を根拠にしているが、読み取りを誤って記述しているもの
99		上記以外の解答
0		無解答

趣旨

データの傾向を的確に捉え、判断の理由を度数分布多角形の特徴を基に説明することができるかどうかをみる。

課題と改善策

＜課題＞

【データ活用能力】

度数分布多角形のどこに注目すればよいかを理解できていないことが推察される。
データの分布領域で学習する表やグラフについて、それぞれの良さや活用することの意義などを理解した上で、どのようなことを読み取ることができないと考えられる 。

＜改善策＞

① グラフを見て「何が違うかはなんとなく分かるけれど、どう書けばいいか分からない」という状態にある。まずはグラフの特徴を表現する「数学的なキーワード」を徹底してインプットする。

例

・山の位置（中心・ピーク）：「度数が最も多い階級（最頻値）が、A のデータに比べて右側（値が大きい方）に寄っている」
・グラフの広がり（散らばり）：「全体的に横に広がっている（散らばりが大きい）」「中央に山が集中している（散らばりが小さい）」
・範囲（データの位置）：「〇〇以上の階級に、A よりも多くのデータが含まれている」

② 【グラフの特徴】＋【データの傾向】＝【判断】という 3 ステップの型を指導する。

記述のテンプレート例

・「（度数分布多角形の山が右に寄っており、〇〇以上の階級の度数が相手より多い）という特徴から、（全体的に数値が高い傾向にある）と捉えられるため、（～と判断できる）。」

◆各教科における領域と評価の観点別の正答状況

＊「府比」と示しているのは、大阪府の平均正答率を１とし、大阪府と比べて本市がどれくらいできているかの割合を表している

	学習指導要領の内容		平均正答率（%）			府比
			泉南	大阪	全国	
小学校国語	領域	言葉の特徴や使い方に関する事項	58.9	64.4	66.8	0.915
		情報の扱い方に関する事項	44.1	51.4	52.3	0.858
		話すこと・聞くこと	54.0	63.9	65.8	0.845
		書くこと	36.3	43.8	45.7	0.829
		読むこと	59.6	65.3	65.9	0.913
	評価の観点	知識・技能	54.0	60.1	62.0	0.899
		思考・判断・表現	50.5	58.6	60.1	0.862

	学習指導要領の領域及び評価の観点		平均正答率（%）			府比
			泉南	大阪	全国	
小学校算数	領域	数と計算	53.7	61.1	61.1	0.879
		図形	42.0	54.2	55.3	0.775
		測定	68.6	77.6	78.1	0.884
		変化と関係	33.0	40.6	41.1	0.813
		データの活用	41.7	48.0	48.6	0.869
	評価の観点	知識・技能	51.0	59.8	60.1	0.853
		思考・判断・表現	38.0	44.9	45.4	0.846

	学習指導要領の内容		平均正答率（%）			府比
			泉南	大阪	全国	
中学校国語	領域	言葉の特徴や使い方に関する事項	55.4	60.4	63.0	0.917
		情報の扱い方に関する事項	65.3	66.8	70.4	0.978
		話すこと・聞くこと	54.9	60.2	63.9	0.912
		書くこと	59.2	64.5	67.4	0.918
		読むこと	52.2	56.8	59.7	0.919
	評価の観点	知識・技能	57.1	61.4	64.2	0.930
		思考・判断・表現	55.5	60.5	63.7	0.917

	学習指導要領の領域及び評価の観点		平均正答率（%）			府比
			泉南	大阪	全国	
中学校数学	領域	数と式	60.7	65.6	67.8	0.925
		図形	40.9	48.0	48.7	0.852
		関数	46.0	52.8	54.8	0.871
		データの活用	47.8	49.7	53.5	0.962
	評価の観点	知識・技能	56.2	60.9	63.0	0.923
		思考・判断・表現	30.6	36.6	39.1	0.836

中学校英語は、CBT システムによるオンライン実施であり、IRT スコアによる結果のため、標記せず

◆質問紙調査から　主な質問事項と状況
＊主な質問事項を抜粋しています。

質問事項	小学校			中学校		
	泉南市	大阪府	全国	泉南市	大阪府	全国
朝食を毎日食べていますか	89.9	92.1	93.3	85.1	88.9	90.9
毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	81.0	83.2	82.8	74.0	79.7	80.5
自分には、よいところがあると思いますか	83.3	86.1	85.6	79.1	82.2	84.0
将来の夢や目標を持っていますか	78.3	80.7	81.8	67.1	66.0	67.6
人の役に立つ人間になりたいと思いますか	96.5	95.1	95.8	96.2	95.4	95.9
人が困っているときは、進んで助けていますか	93.7	91.6	92.7	85.1	89.7	90.8
地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか	79.8	78.3	80.1	67.4	69.2	72.3
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	97.0	95.0	96.2	93.3	94.0	95.1
学校に行くのは楽しいと思いますか	90.1	84.5	85.7	84.0	83.4	85.4
困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか	77.2	76.0	70.6	76.3	74.1	71.9
先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	94.5	92.5	91.4	90.0	90.7	90.9
先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、わかるまで教えてくれていると思いますか	89.5	87.7	87.3	83.8	84.7	85.2
あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか	83.1	80.7	81.5	80.0	80.8	84.5
授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	74.5	76.3	77.6	77.8	77.7	78.8
授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか	67.7	66.8	66.4	68.0	67.0	65.5
自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか	80.9	75.3	77.9	80.0	76.9	78.6
＊授業で、PC・タブレットなどの ICT 機器を、どの程度使用しましたか(週１回以上)	84.6	82.9	87.9	86.4	87.4	92.9
国語の勉強は好きですか	55.9	56.4	57.4	50.7	55.9	57.2
国語の授業の内容はよく分かりますか	81.2	82.7	81.5	70.5	77.4	76.8
算数・数学の勉強は好きですか	55.7	56.1	57.6	54.0	55.0	56.1
算数・数学の授業の内容はよく分かりますか	74.8	78.5	77.5	74.0	76.2	74.2

▸質問事項に対して、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合(%)
▸＊の項目は、「週１回以上」「週３回以上」「ほぼ毎日」と回答した児童生徒の割合(%)
▸□囲みの数値は府と全国を上回っているもの、波線(網掛)の数値は、府と全国を下回っているもの

◆児童・生徒質問紙調査から見る特徴と考察（クロス集計活用）

1. 本の冊数(家庭の蔵書数)と正答率（質問番号 29）

「あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか（雑誌、新聞、教科書は除く）」

小学校

選択肢		児童数	児童数の割合(%)	平均正答率(%)	
				国語（１３問）	算数（１６問）
1	０～１０冊	112	25.2	42.9	38.3
2	１１～２５冊	115	25.9	52.0	45.8
3	２６～１００冊	113	25.5	55.0	50.6
4	１０１～２００冊	58	13.1	59.2	58.8
5	２０１～５００冊	27	6.1	61.3	58.1
6	５０１冊以上	7	1.6	69.2	69.6

中学校

選択肢		生徒数	生徒数の割合(%)	平均正答率(%)	
				国語（１５問）	数学（１６問）
1	０～１０冊	99	22.4	50.9	40.6
2	１１～２５冊	104	23.6	51.9	48.0
3	２６～１００冊	129	29.3	59.8	54.8
4	１０１～２００冊	60	13.6	60.5	54.4
5	２０１～５００冊	29	6.6	66.7	60.9
6	５０１冊以上	7	1.6	60.0	38.5

特徴
〇本の冊数(家庭の蔵書数)が多いほど正答率が高い傾向がある。
〇本の冊数(家庭の蔵書数)が 101 冊以上の割合が小中学校ともに約 20%程度と、家庭の蔵書数の少なさがわかる。

考察
家庭において、「本を買えば学力が上がる」というわけではなく、子どもの読書環境、読書習慣、語彙環境など、複数の要因が関係していることが考えられる。
学校においては、学校の読書環境、読書習慣、語彙環境を充実させ、家庭といかにつなげていくかという視点が重要であると考える。

2. SNS や動画視聴などの時間と正答率の関係（質問番号 4）

「普段、１日当たりどれくらいの時間、スマートフォンや携帯電話、パソコン、タブレット、ゲーム機、テレビ等（以下、「スマートフォン等」）で SNS や動画視聴などをしますか（スマートフォン等を使って学習する時間やゲームをする時間は除く）」

小学校

選択肢		児童数	児童数の割合(%)	平均正答率(%)	
				国語（１３問）	算数（１６問）
1	4時間以上	133	30.0	45.1	40.6
2	3時間以上、4時間より少ない	78	17.6	54.7	47.2
3	2時間以上、3時間より少ない	84	18.9	54.1	49.3
4	1時間以上、2時間より少ない	82	18.5	60.0	56.3
5	３０分以上、１時間より少ない	39	8.8	50.5	49.0
6	３０分より少ない	12	2.7	53.2	52.6
7	スマートフォン等を持っていない	16	3.6	53.8	54.3

中学校

選択肢		生徒数	生徒数の割合(%)	平均正答率(%)	
				国語（１５問）	数学（１６問）
1	4時間以上	222	50.3	53.0	46.0
2	3時間以上、4時間より少ない	83	18.8	59.6	51.4
3	2時間以上、3時間より少ない	81	18.4	60.7	55.7
4	1時間以上、2時間より少ない	34	7.7	58.4	53.5
5	３０分以上、１時間より少ない	13	2.9	62.2	66.7
6	３０分より少ない	5	1.1	58.7	55.0
7	スマートフォン等を持っていない	3	0.7	43.3	56.3

特徴

〇SNS や動画視聴などの時間が、小学校では「1 時間以上、2 時間より少ない」、中学校では「30 分以上、1 時間より少ない」と答えた児童生徒において、正答率が最も高い。

〇一方で、「4 時間以上」と答えた児童生徒の割合は、小学校 30.0%、中学校 50.3%と最も多く、該当の児童生徒の正答率は顕著に低下している。

考察

「30 分より少ない（またはスマートフォン等を持っていない）」と答えた児童生徒よりも、1 時間以上利用している児童生徒の正答率は高く、4 時間を超える長時間利用の児童生徒の正答率は低い傾向がみられる。このことから、適度な利用を行いつつも、自己管理できることが学習に影響していることが推測される。

3. 起床時間の規律性(生活リズム)と学力への強い影響（質問番号 3）

「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」

小学校

選択肢		児童数	児童数の割合(%)	平均正答率(%)	
				国語（１３問）	算数（１６問）
1	している	237	53.4	53.3	50.8
2	どちらかといえば、している	153	34.5	51.8	45.8
3	あまりしていない	43	9.7	52.4	44.0
4	全くしていない	8	1.8	41.3	28.9

中学校

選択肢		生徒数	生徒数の割合(%)	平均正答率(%)	
				国語（１５問）	数学（１６問）
1	している	223	50.6	56.3	50.2
2	どちらかといえば、している	180	40.8	56.7	51.3
3	あまりしていない	28	6.3	51.3	42.3
4	全くしていない	8	1.8	63.8	44.6

特徴

〇毎日同じくらいの時刻に起きている（「している」「どちらかといえばしている」）割合は、小学校で約 88%、中学校で約 91%である。

〇特に小学校において、全くしていない児童（1.8%）の正答率は、国語 41.3%・算数 28.9%と大きく落ちている。

考察

特に小学校において起床時間の規律性（生活リズム）と正答率が相関しており、基本的な生活習慣の確立が学習定着の土台となっていることが伺える。

4. ICT 活用と正答率（質問番号 36-2、36-3）

「あなたは自分がインターネットを使って情報を収集する（検索する、調べるなど）ことができると思いますか」

小学校

選択肢		児童数	児童数の割合(%)	平均正答率(%)	
				国語（１３問）	算数（１６問）
1	そう思う	225	50.7	54.6	49.4
2	どちらかといえば、そう思う	126	28.4	49.3	47.9
3	どちらかといえば、そう思わない	27	6.1	46.4	38.2
4	そう思わない	8	1.8	24.0	12.5

中学校

選択肢		生徒数	生徒数の割合(%)	平均正答率(%)	
				国語（１５問）	数学（１６問）
1	そう思う	238	54.0	62.1	56.5
2	どちらかといえば、そう思う	123	27.9	52.8	45.0
3	どちらかといえば、そう思わない	24	5.4	36.8	34.4
4	そう思わない	12	2.7	40.0	33.3

「あなたは自分が PC・タブレットなどの ICT 機器を使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）ことができると思いますか」

小学校

選択肢		児童数	児童数の割合(%)	平均正答率(%)	
				国語（１３問）	算数（１６問）
1	そう思う	122	27.5	58.3	53.4
2	どちらかといえば、そう思う	147	33.1	50.3	46.1
3	どちらかといえば、そう思わない	96	21.6	47.8	44.3
4	そう思わない	21	4.7	41.0	33.0

中学校

選択肢		生徒数	生徒数の割合(%)	平均正答率(%)	
				国語（１５問）	数学（１６問）
1	そう思う	100	22.7	62.2	57.3
2	どちらかといえば、そう思う	177	40.1	58.4	53.5
3	どちらかといえば、そう思わない	83	18.8	54.0	44.5
4	そう思わない	36	8.2	43.3	35.4

特徴
〇小中学校共に、情報収集・整理に、タブレット（インターネット）等を活用できると感じている児童生徒の正答率が高い傾向が見られる。

考察
〇日々の学習や自主学習、調べ学習などにおいて、補助的役割としてタブレット（インターネット）等を活用することは、課題としている「根拠の引用や条件の合致、情報の選択」などの経験となり、学習の定着の一助になると考えられる。

５．話し合い活動（対話的学び）を有意義に感じることと正答率（質問番号 42）

「学級の友達・生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」

小学校

選択肢		児童数	児童数の割合(%)	平均正答率(%)	
				国語（１３問）	算数（１６問）
1	当てはまる	190	42.8	55.1	49.9
2	どちらかといえば、当てはまる	189	42.6	51.5	50.5
3	どちらかといえば、当てはまらない	51	11.5	47.5	36.5
4	当てはまらない	7	1.6	44.0	21.4
5	学級の友達との間で話し合う活動を行っていない	2	0.5	42.3	43.8

中学校

選択肢		生徒数	生徒数の割合(%)	平均正答率(%)	
				国語（１５問）	数学（１６問）
1	当てはまる	157	35.6	60.0	56.3
2	どちらかといえば、当てはまる	207	46.9	56.1	49.2
3	どちらかといえば、当てはまらない	52	11.8	54.3	44.3
4	当てはまらない	15	3.4	35.1	27.1
5	学級の生徒との間で話し合う活動を行っていない	8	1.8	37.3	21.3

特徴

〇話し合い活動を通じて自分の考えを深めたり新たな考え方に気付いたりしている児童生徒の平均正答率は高い傾向にある。

〇一方で、特に中学校で、授業において「話し合い活動を行っていない」と回答した生徒（1.8%）や「当てはまらない」生徒（3.4%）の平均正答率は、数学 21.3%～27.1%、国語 35.1%～37.3% まで急落している。

考察

話を聞くばかりの授業ではなく、話し合い活動を取り入れた授業づくり（主体的・対話的で深い学び）が、学習の定着に影響していることが考えられるため、授業づくりに反映させていくことが大切である。

６．自分で工夫して学ぶ意識は学力向上に反映（質問番号 22）

「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」

小学校

選択肢		児童数	児童数の割合(%)	平均正答率(%)	
				国語（１３問）	算数（１６問）
1	できている	112	25.2	52.8	47.7
2	どちらかといえば、できている	250	56.3	53.8	50.6
3	どちらかといえば、できていない	75	16.9	45.1	39.5
4	できていない	6	1.4	66.7	49.0

中学校

選択肢		生徒数	生徒数の割合(%)	平均正答率(%)	
				国語（１５問）	数学（１６問）
1	当てはまる	157	35.6	60.0	56.3
2	どちらかといえば、当てはまる	207	46.9	56.1	49.2
3	どちらかといえば、当てはまらない	52	11.8	54.3	44.3
4	当てはまらない	15	3.4	35.1	27.1
5	学級の生徒との間で話し合う活動を行っていない	8	1.8	37.3	21.3

特徴

〇特に中学校においてわからないことを自分で工夫して学べている生徒（35.6%）の正答率は、国語 60.0%、数学 56.3%と高い正答率を示している。

考察

自ら学習の問いを見つけ、その解決に向けて工夫して取り組む習慣を付けることが学力向上につながることが考えられる。

◆同一集団の3年後の状況

下図では、同一集団の比較として、R5の小学６年生とR8の中学３年生を比較している。

R5小学６年生の国語（青実線）の正答率の対府比が0.920からR8中学３年生で0.918とやや下降。
R5小学６年生の算数（オレンジ実線）の対府比が0.909からR8中学３年生数学で0.909と同推移。

【対府比経年の比較】

小学校	R3	R4	R5
国語	0.905	0.953	0.92
算数	0.957	0.936	0.909

中学校	R6	R7	R8
国語	0.93	0.962	0.918
数学	0.882	0.872	0.909



小学校から中学校へ学習内容が難しくなる中で、一定の学習の理解度を維持している。
しかし、府との差が縮まっていない実態については課題と捉え、さらなる理解向上に向け、とりわけ理解度の低い状況の児童生徒への指導・支援を充実させていくことで集団の学力の底上げを図ることに重点を置く必要がある。